

小中一貫校について

具体的な内容

- 小中9年間の**系統性を踏まえた学習活動**（例：北川学）
- **乗り入れ授業**（例：中学校教員による小学校での教科指導）
- **小中合同研修会**（例：学力分析研修会、道徳講師招聘研修）
- **小中合同行事**（例：運動会、小中統一参観日）
- **小中共通の学校目標や研究主題**の設定
- 小中の**校時**を揃える（例：1・3校時の始まりを合わせる）
- **校長1名体制**による経営ビジョンの統一化
- **小中一貫加配教員**による地域の実情に沿った運用
（例：小学校の複式完全解消、中学校の教科指導の充実）

小中一貫校について

メリット

- 乗り入れ授業や小中合同行事等により小中間の交流が増え、中学校入学時の**段差（いわゆる中1ギャップ）を抑える**ことができる。
- 教科の専門性のある中学校教員が小学校で授業を行うことにより、**学力や学習意欲の向上**が期待できる。
- 特に小規模の小学校において、多様な教員が指導に関わることにより、**子どもの良さを多面的に評価**することができる。
- 小中の教職員同士の情報共有が図られ、**効果的な指導**が展開できる。
- **小学生の中学校へのあこがれや期待感**が育まれる。
- 小学生と関わることにより、**中学生の自立や責任感**が育まれる。
- 小学生が**中学校の部活動に参加**しやすくなる。
- **小中一貫加配教員による地域の実態に即した運用**が可能となる。

小中一貫校について

小学校の複式学級編制基準

- **1・2年生** → 2学年合計**8名まで**が複式学級
- **2・3年生以上** → 2学年合計**16名まで**が複式学級

小中一貫校について

北川小の複式学級

複式学級の解消方法

- ① 教頭が担任を受け持つ
- ② 加配教員(+1名)が担任を受け持つ

令和元年は①の教頭による複式解消を実施

令和元年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	情緒	合計
児童数	9	5	6	9	8	9	5	51
担任	土居	久田	矢野	大坪	溝渕	松岡	牛窓	

小中一貫校について

北川小の複式学級

令和2年度は2つの複式学級ができる予定

令和2年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	情緒	合計
児童数	7	9	6	6	9	8	5	50

小中一貫校について

課題や求められること

- 一貫校初年度は、合同行事や乗り入れ授業、職員会の持ち方等の小中学校間の調整が必要となる。
- また、特に行事などについては、保護者への事前の丁寧な周知が必要となる。
- 校長が1名体制になることにより、きめ細やかな管理職の対応が求められる。
- 保護者のみならず、地域住民や議会、各種団体等に対して周知を行う必要がある。

小中一貫校について

導入した場合に確実に変わること

- 乗り入れ授業が本格的に始まること。
- 校長が1名になること。
- 小中一貫加配教員の配置により複式学級が完全に解消されること。
- 小中共通の学校目標・研究主題が設定されること。

変わる可能性があること

- 小中合同学校行事（運動会その他、例えば道徳参観日や学習発表会等）
- 小中教員の合同研修会（指定事業関係その他、学力調査分析や道徳等）
- 校時の調整・変更（乗り入れ授業や合同行事を実施しやすくするため）